掲載日:2014年10月12日,面名:U206X0,記事ID:K201410120A0U206X00212
(C)河北新報社

熊原（仙台大）無安打無得点

仙台六大学野球

仙台六大学野球秋季リーグ最終節第1日は11日、仙台市の東北福祉大球場で、仙台大—東北学院大、東北工大—宮城教育大の各1回戦があり、仙台大の熊原健人投手（3年）が史上13人目（17度目）の無安打無得点試合を達成した。

熊原は130球を投じた。アウトの内訳は三振10、内野ゴロ12、内野飛球2、外野飛球3。1四球、2死球で3人走者を出した。仙台大は1—0で学院大を下した。工大は5—1で宮教大に快勝した。

最終節第2日は同球場で、宮教大—工大、学院大—仙台大の各2回戦がある。

仙台大1点を守る

仙台大—学院大1回戦（仙台大1勝）

仙台大	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
学院大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

勝=熊原4試合2勝1敗
敗=本田5試合3勝2敗

【評】仙台大の熊原が無安打無得点試合を達成。四死球で走者を背負った三、五回は後続を内野ゴロなどに仕留めた。六回に根深周の中前打でもぎ取った1点を守り抜いた。学院大は4安打1失点と好投した先発本田を援護できなかった。

仙台大—学院大　無安打無得点試合を達成した仙台大の熊原

工大1回一挙4点

工大—宮教大1回戦（工大1勝）

工大	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宮教大	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

勝=菊地7試合2勝4敗
敗=遠藤7試合1勝4敗

【評】工大が序盤のリードを守った。一回1死満塁から佐竹の右前打で2点を先取。植田の左前打と鈴木稔の内野ゴロでさらに2点を加えた。先発菊地は3安打1失点の完投。

宮教大は4点を失った直後の一回に1点を返したが、二回以降は三塁を踏めなかった。

工大・佐竹（先制の2点適時打）「低めの変化球に何とか食らい付いた。今季は好機で一本が出ずに接戦を落としていたので、一回に4点が入ったのは良かった。2勝して気持ち良く引退したい」

仙台大	打	安	点
(三)右 松本	3	0	0
(指)遊 郷古	3	0	0
(左)一 根深周	4	1	0
捕 薄井	4	0	0
(中)二 五十嵐	4	1	0
振 奈良崎	3	0	0
球 坂東	3	1	0
機 加藤大	3	0	0
併 庄司祐	2	1	0
残			
7	21	04	29

学院大	打	安	点
(三)捕 井上	4	0	0
(指)指 嵯峨	4	0	0
(右)一 佐藤信	4	0	0
(一)中 小山	3	0	0
(中)左 水間	3	0	0
(二)遊 佐藤翔	3	0	0
振 山本祐	3	0	0
球 工藤	1	0	0
機 高橋智	2	0	0
併 小野	3	0	0
残			
10	3	0	0

工大	打	安	点
(中)遊 崎山	5	2	0
打 加藤	5	3	0
遊 滑川	0	0	1
(二)指 黒川	0	0	0
(指)三 佐藤裕	3	0	0
(左)一 伊藤	2	2	0
捕 佐竹	2	2	1
打 植田	2	2	1
一 鈴木稔	3	0	1
(捕)右 高橋一	1	0	0
打 鈴木勇	0	0	0
捕 桐生	2	0	0
(右)遠 藤	1	0	0
振 吉田	1	0	0
球 沼田	3	0	0
機			
併			
残			
28	32	7	28

宮教大	打	安	点
(中)(二)遊 小野寺	3	1	0
遊 米真	3	0	0
(三)右 千葉	4	4	0
打 丹野勝	4	2	0
(指)左 石川	2	0	1
(捕)捕 伊藤	1	0	0
(一)左 佐藤大	3	0	0
振 早坂	2	0	0
球 飯田	3	0	0
機 村井	0	0	0
併 宮本	2	0	0
残 儀併			
13	22	4	27

工大	打	安	責
投 菊地	9	32	3
熊 手回	9	30	0
本 田	9	32	4

工大	打	安	責
遠藤優	5	2	4
佐藤大	2	0	0
丹野	1	1	1
梶川	1	1	1

宮教大	打	安	責
菊地	9	32	1

盗=工藤、暴=本田2
時=2時間5分
三=崎山、二=崎山
時=2時間12分

春の王者一矢報いる

春季MVPの仙台大・熊原が学院大相手に無安打無得点試合を成し遂げた。「勝つぞと意気込んではいたが、まさかこんなことになるとは…」と信じられない様子だった。

球は走っていたが、ボール球が多く三回までに49球を費やした。やや荒れ気味が幸いし「逆に相手は的を絞りづらかったと思う」。四回は嵯峨、佐藤信の好打者に対し、ボール球を振らせて連続三振に仕留めた。

「尻上がりに制球が良くなった」という後半は直球とフォークを軸にテンポ良く打ち取り、三球三振を三つ奪った。

森本監督は「打ち気をそらし、うまく良さを引き出してくれた」と坂東のリードを評価する。女房役は「直球を意識する打者を変化球でかわせた。低めのボール球も有効だった」と熊原の投球をたたえた。

チームは試合のなかった前節に2季連続優勝の夢が絶たれたが、今季の開幕投手としての意地を見せた。今季は逆転負けするなど、不本意な投球が続いており、「これで一矢を報いることができた」と右腕。名誉挽回には十分な結果を残した。

（剣持雄治）